

社会参加先進国へ

サービスグラント 年次報告書 2020-2021

[2020年4月1日－2021年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



社会課題を前に、誰もが行動を起こすことのできる機会が、すぐそこにある。
多様なそれぞれが互いの違いを尊重し、可能性を活かしあいながら当たり前で協働できる。
それが、私たちが考え、私たちが目指す、「社会参加先進国」です。

今、「プロボノ」は、非営利団体の活動を躍進させる力として、またビジネスパーソン社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。サービスグラントが切り開き、これまでの実践を通じて培ってきたもの。それは単なる手段や手法ではありません。複数の主体が共通の目的のもとに協働し、成果を生み出すまでに、何が求められ、何が力となるのか。私たちの知見は、これらの普遍的な問いに対して常にアップデートされ続けています。

サッカーをする人が、ボールさえあれば誰とでもプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を越えて歌い、語り合うように。

サービスグラントは、日本と世界の国々を社会参加先進国にすることを目指し、挑戦を続けます。

私たちが取り組むプロボノ

非営利組織の 運営基盤強化

より多くの社会課題解決のために、プロボノプロジェクトを通じて非営利組織の運営基盤強化を支援し、社会課題解決を後押しします。

企業と社会人の力を より広く発揮する

ビジネスとプロボノには相乗効果があります。プロボノは、社会課題解決に寄与するとともに、スキルの再認識やモチベーション向上にも効果을上げています。

誰もがあたりまえに 参加できる地域・社会へ

プロボノを通じて、これまで関わることのなかった人同士が関わり、新たな発見を得ることで、地域・社会に対する視野を広げるとともに、参加するきっかけを提供しています。

代表メッセージ

およそ10年前、「プロボノ」の認知度は低く、“知る人ぞ知る”という枕詞がつく状況でした。当時は「プロボノ」という言葉や考え方についてひろく知ってもらうことがサービスグラントにとって最大のテーマでした。「プロボノフォーラム」というイベントをたびたび開催し、講演、事例紹介、パネルディスカッションなどさまざまな方法で、プロボノの魅力や可能性を発信してきました。

ここ数年にわたって、「働き方改革」「ライフシフト」「パラレルキャリア」など、ビジネスパーソンが会社以外の活躍の場を持つことに注目が集まっています。「ソーシャル」に関心を持ち、実際にプロボノ活動を始めたいと思う人は、ひと昔前と比べて大幅に広がりました。

「越境学習」や「他流試合」は、企業の人事研修の格好のテーマとして新たなマーケットも生まれました。



このようなビジネスパーソン側の社会参加に対する意欲が高まりを見せるなか、ソーシャルセクターはどうでしょうか。

日本国内には約5万のNPO法人があり、それを上回る数の一般社団法人等の公益法人があるといわれています。法人格を持たない任意団体になると、おそらく、法人格を持つ団体の3~4倍程度は少なくともあるのではないかと想定されます。

正確な数字はわかりませんので、ここでは便宜的に、法人格のあり・なしをあわせて、国内におよそ50万団体の公益活動を行っている団体があると仮定してみましょう。これは、1万人が暮らす小学校区程度の地域に38の団体がある計算になります。私たちの身近な場所にはこれほどのNPOや地域団体が実は存在しており、そこには「参加」の機会が少なからず存在しているのです。

そのなかの多くの団体で、担い手が不足していたり、思うように参加者が集まらなかったりして、活動を広げていくことに課題を感じています。団体の活動を幅広い世代に認知してもらいたい、より多くの支援者や参加者を集めたい、より質の高い支援を届けたい。社会課題解決に取り組む団体のこのような思いを実現するために、必要な支援を求めたり、仲間を集めたりすることが容易にできる環境が社会にもっと広がれば、機運が高まりつつある新たな担い手による社会参加の輪が急速に広がり、社会課題解決が加速度的に進むかもしれません。

サービスグラントでは、2019年から、オンライン上でNPO・地域団体と支援者とをつなぐ社会参加プラットフォーム「GRANT」を立ち上げ、2020年より本格的に運用をしています。その機能も充実し、日本各地のコーディネーターがこのシステムの利用を始めています。また、2021年からスタートした短期集中イベント「スコパソン」は、団体の課題を整理し、「GRANT」上で発信する支援内容の具体化・言語化に効果を発揮しています。

時代のニーズに応えるこうした新たなプラットフォームを整え、地域や社会に目が向き始めたビジネスパーソンと、新たな担い手を必要とするソーシャルセクターとをきめ細かくつなぎ、コーディネートすることが、いまこそ必要とされています。サービスグラントが長年培ってきた、ビジネスとソーシャルとをつなぐ仕組みの可能性を追求する時がいよいよ来ているのではないかと感じます。

コロナ禍で社会は大きく傷つき、多くの人が先の見えない不安にさいなまれています。活動の停止や休止を余儀なくされた団体も数多くあります。しかし、これからの未来を見据えるうえで、意識的に、新たなつながりを生み出す営みが求められていることは間違いありません。つなぐ力、つながりをつくる力の重要性和可能性を信じながら、サービスグラントとしての社会的な使命をいかに果たせるかについて、これからも考え続けていきたいと思っています。

2021年 8月

認定NPO法人 サービスグラント

代表理事 嵯峨 生馬



プロジェクト実施件数が累計1000件を突破

2020年冬、サービスグラントのプロジェクト実績が1000件を突破しました。これまでの活動を支えてくださったみなさんに改めて感謝すると同時に、多面的・多角的にプロボノを考察し、さらなる“プロボノの進化”に向けた道筋を浮かび上がらせることを目的に、様々な企画が始動しました。



<https://www.servicegrant.or.jp/news/5143/>

2020年度の1年間で

183件のプロボノプロジェクトを運営

P6 広がる関わり方の選択肢



昨年度から+927名増の

累計 **6,548名**のプロボノワーカーが登録

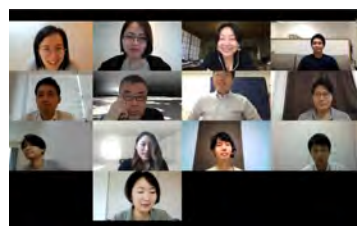
P8 一層高まるプロボノへの関心



人材育成 × プロボノのプログラム

累計 **25社156名**の企業人が参加

P9 社会課題解決型人材育成プログラムの展開



企業・行政と

140件の協働プロジェクトを実施

P10 企業・行政とのパートナーシップ



ふるさとプロボノプロジェクト実施累計数

72件に到達

P7 広がる関わり方の選択肢



新聞・テレビ・雑誌など

21件のメディアに掲載

P16 メディア掲載一覧



1 | 広がる関わり方の選択肢

プロジェクト
実施件数

183件

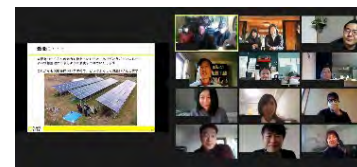
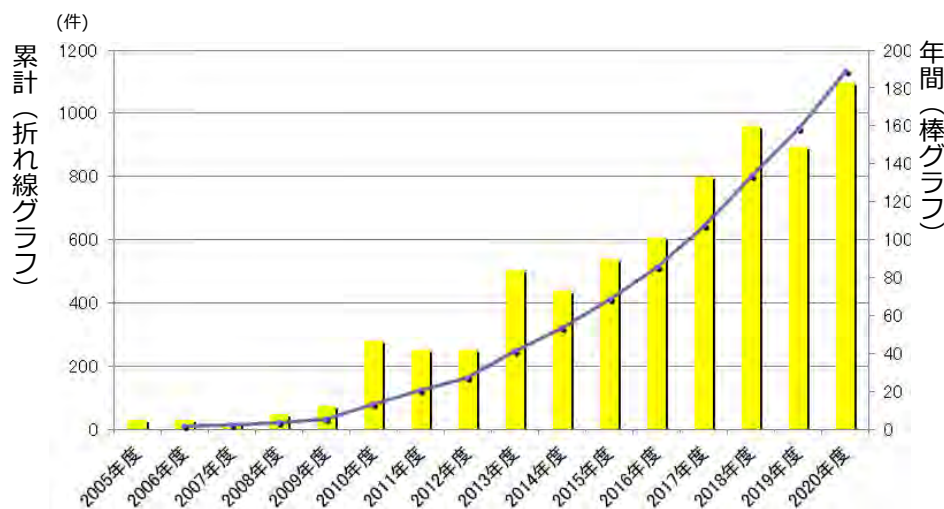
サービスグラント
156件

GRANT
27件

累計で1000件超、年間で183件のプロジェクトを実施

活動開始から15年を迎え、プロジェクト実績が1000件を超えた2020年度。サービスグラントのプロボノプロジェクト・GRANT合わせて計183件のプロジェクトを実施しました。長期のプログラムとしては73件、短期のプログラムで110件のサポートを提供しています。

また、GRANTにより、昨年比3倍の27件のサポート提供が実現しました。「プロボノを進化させる」をミッションに、支援内容や期間、地域など、さまざまなプロボノのスタイルを実現すべくスタートさせた「GRANT」。この新たなオンラインプラットフォームを通じたプロジェクトの実績が着実に積みあがり、支援ニーズへタイムリーに対応できる仕組みの可能性を感じた年となりました。



コロナ禍以降は、勉強会などを開き試行錯誤をつづけながら、これまでより一層オンラインを活用してプロジェクトを進行。双方の協力により、リアルとのハイブリット型等も取り入れながらスムーズなコミュニケーションが実現しました。



団体が抱える多様なニーズに、必要なタイミング、適切なプログラムで応え、プロボノの選択肢と可能性を広げる「GRANT」。

サービスグラント プロボノプログラムで156団体を支援

サービスグラントでは、プロボノワーカー 5～6 名によるチームを編成し、1 名につき週 5 時間程度の稼働を目安に、各支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムを実施しています。3～6 カ月かけて、ウェブサイト・印刷物・事業計画立案など、長期的な活用継続を前提に成果物を提供する「長期プログラム」のほか、現状のニーズに寄り添い、期間や作業ボリュームをコンパクトに設計した「短期プログラム」等があります。

本年度は、長期プログラムで73件、短期プログラムで83件のサポートをNPO法人・地域団体等に提供しました。長期プログラムではプログラムの一部を改定したほか、短期プログラムでは、手軽にプロボノを体験してみたいというNPOや地域団体、参加者等の声に応じて新たなワークショッププログラムを実施。機会の拡大に貢献しています。約 2 カ月の期間に複数の団体を一斉に支援する「プロボノチャレンジ（45 件）」と 1 日で成果物の納品を目指す「プロボノ 1 DAY チャレンジ（15 件）」が短期プログラム全体の 7 割を占めています。



プロジェクトの成果物は、「大阪ええまちプロジェクト」特設サイトや、東京都町会・自治会活動支援ポータルサイト等にて一部公開しています。

GRANTで27団体を支援

プロボノによる支援をさらに拡大するため、新たに開発したプラットフォーム「GRANT」。この仕組みを通じて、本年度27件のプロジェクトが実施されました。GRANTを運営するコーディネーター別の内訳は、「サービスグラント」16件、「ハマボノ」1件、「プロボノMATSUDO」10件です。プロジェクトの内容は、ICT活用やインタビューと原稿執筆、営業活動支援、Webディレクション等多岐にわたります。

ママボノ

ママボノは、育児休業中や、妊娠出産などにより休業や離職をした、仕事の経験を持つ女性によるプロボノとして2013年度にスタート。2020年度は、東京・大阪・横浜・青森で、16の支援先団体を99名で支援しました。これまでの8年間で、延べ84団体を支援し、557名が参加したことになります。

2020年度は新型コロナウイルス感染予防のため、これまで集合型で開催をしていたオリエンテーション・キックオフミーティング・成果報告会を、東京・大阪・横浜ではオンライン開催としました。見学やヒアリングもオンラインを活用したり、少人数で実施するなどの工夫をしました。

例年と異なる開催となりましたが、支援先の方からは、「一緒に話し合う中で自分たちの課題が明確化した」「迷いが生じても丁寧に微調整をしてくださった」「イメージ以上の出来栄えに感謝しかありません」などの喜びの声をいただきました。参加者からは、「大人になった自分にもう一度チャレンジの機会をくれました」「こういうリーダーになりたいと思えるメンバーに出会えた」「復職後もオンラインで活動する自信を持てた」「ワークライフバランスがイメージできた」などの感想もいただきました。

また、オンラインを中心としたことで、遠方からの参加も可能になり、海外から4名、開催エリア以外から6名が参加しました。遠隔地からの参加者には「オンラインでもとてもいい関係を築くことができた」「自分の世界を広げるともいいきっかけになる」などの声をいただき、これまで以上にママボノのネットワークを広げる結果となりました。



プロジェクト進行は主にZoomを活用。



見学などは感染対策に配慮しながら、少人数で可能な範囲で実施しました。

ふるさとプロボノ

2011年からスタートした「ふるさとプロボノ」は、大都市圏のビジネスパーソンやクリエイターなどが、日本各地の地域コミュニティの課題解決や地域経済の自立を応援する地域交流型プログラムです。人口減少や担い手不足などの課題を前に地方創生に注目が集まる中、都市圏のプロボノワーカーが現地滞在・交流を含んだプロボノプロジェクトに参加しています。

サービスグラントでは、関係人口をいかに増やすか、経済活動をどう維持展開させていくのかといった地域の課題解決に取り組む行政機関、企業、協会、NPO法人、住民自治組織など多様なプレーヤーと参加者チームのマッチングを行い、具体的な成果物の提供を通じて地域づくりを応援しています。

これまでの取組の成果としては、空き家オーナーの応募が予定の3倍になったり、米粉商品の売り上げが伸びたりと、地域への大きな効果が出ています。本年度は、鳥取県、青森県のほか、「ふるさとプロボノ in 農山漁村」として日本各地の農山漁村も舞台に展開し、計20件を実施。これまでの累計では72件の実施となりました。プロボノが地方と都市の関係人口を増やす具体的な解決策となりうる可能性をさらに感じることができました。



協働先の農家や林業者・漁業者等のもとを訪れ、実際の現場に触れる「しごと体験」も行いました。



地域の現状や感覚を理解したうえで、団体の課題を把握し、提案する成果物の有効性を高めています。

ライフシフトプログラム

人生100年時代の生き方を考えるきっかけとして、プロボノ参加体験を「ライフシフト」の一助とすることへの関心が高まっています。

超高齢社会に対応した地域づくりに多角的に取り組む「東京ホームタウンプロジェクト」では、2018年より、40-50代を主な対象として「ライフシフトプログラム」を提供。セミナー等を開催するほか、プロボノ活動の前後に仕事の経験の棚卸しと、振り返り、それらを他者と分かち合うことを組み合わせて実施しています。

今年度も、自分自身のスキルや経験を、異業種・他職種の人と分かち合いながら、共にプロジェクト経験をすることで、「これまでと全く異なる視点で自身のスキルの強みを見つけることができた」といったコメントや「地域団体に関わりながら地域の現状を学ぶことによって今後の生き方へのヒントを得た」といった声を多数いただきました。



セミナー後に行ったスキルの棚卸・シェアは、チーム内の交流を深めるきっかけにもなりました。

2 | 一層高まるプロボノへの関心

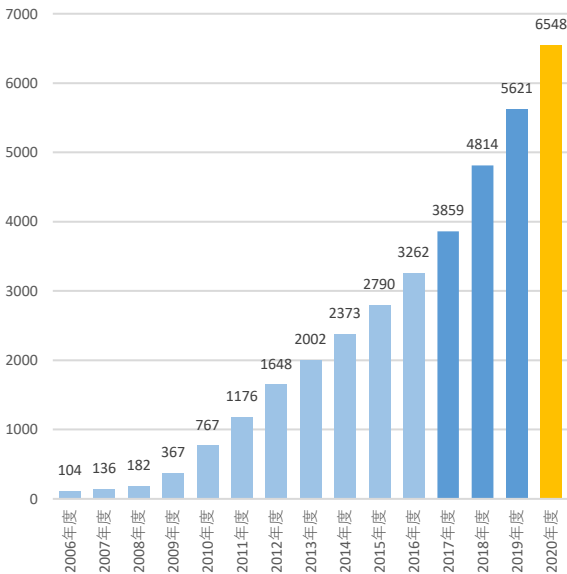
プロボノワーカー
スキル登録者数

6,548名

前年比
+927名

幅広い年代・職種の社会人がプロボノに登録

サービスグラントにプロボノ登録をいただいたプロボノワーカーは、2020年度新たに927名を数え、累計登録者数も6,548名に上りました（図1）。参加者実数としても2020年までで4000人以上となっています。ご登録いただいた方にできるだけ多くの参加機会を創出し、社会課題解決につなげられるよう、今後も取り組んでいきます。登録されているプロボノワーカーの内訳では、次のような傾向が見られます。



（図1）プロボノ登録者数の推移

□ 社会人年数別（図2）

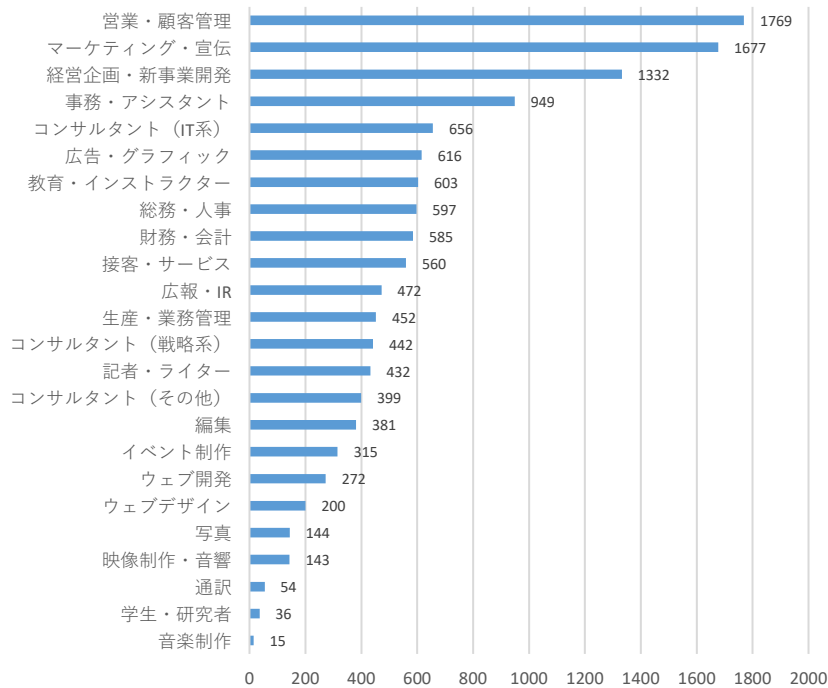
本年度新規登録者のうち最も多かったのは入社6～10年程度の世代で、全体の約4分の1となりました。その他の世代も満遍なく登録者数が伸びていますが、特に2020年度は入社1～5年程度の世代が占める比率が増加しています。

□ 性別（図3）

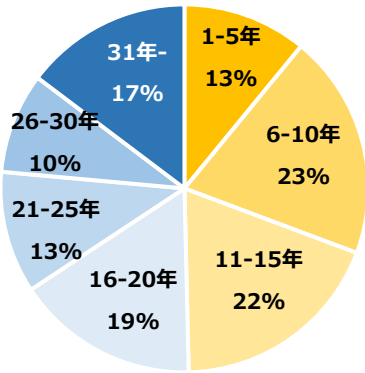
累計登録者数としては全体の54%が男性です。本年度新たにプロボノワーカーとしてプロボノ登録した人では52%が男性、48%が女性とわずかな差となっています。

□ 職種（図4）

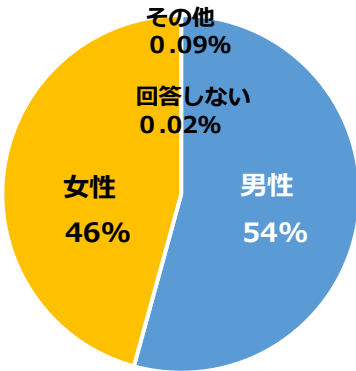
2020年度は、昨年度までと比べて生産・業務管理、マーケティング・宣伝、接客・サービスに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。その他にも、コンサルタント、デザイナーやコピーライターといったクリエイターなど、幅広い職種の方が登録されています。



（図4）2020年度職種別登録者数（累計） ※複数回答あり



（図2）2020年度社会人年数別登録者の比率（累計）



（図3）2020年度男女別登録者の比率（累計）

3 | 社会課題解決型人材育成プログラムの展開

サービスグラントでは、2016年度より、実践型の人材育成プログラムとして、企業向けプログラム「社会課題解決型人材育成プログラム プロボノリーグ」を運営し、これまでに25社156名の方にご参加いただいています。

累計参加者数

企業 25社

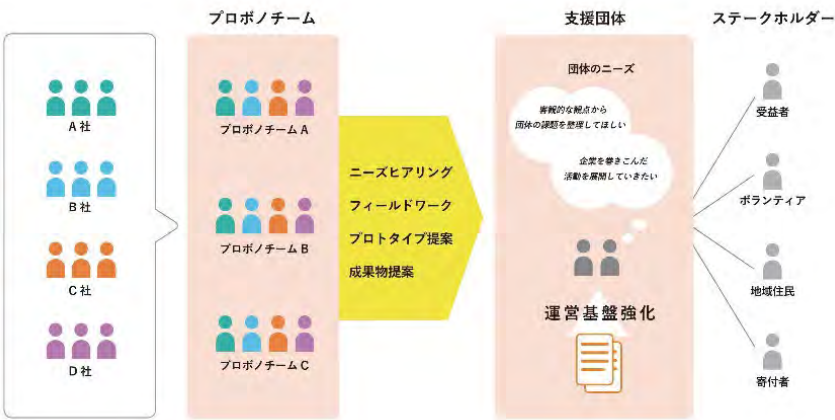
参加者 156名

社会課題解決型人材育成プログラム プロボノリーグ

変化が激しく不確実性の高いVUCAの時代、課題を自分事と捉えて考え、役割を自ら見出し、仲間と協調して価値を創出する自律型人材の育成が求められています。プロボノリーグでは、社会課題を題材に、初めて顔を合わせた異業種企業のメンバーが協働し、社会課題解決を担うNPOの運営課題の解決、新たな価値を創出するアクションラーニング形式での越境学習に取り組みます。会社の外に飛び出す新たな環境での活躍の機会を提供し、参加者が潜在的に有している「社会感度」「共創」「イノベーション」の3つの力に気づきを与えることで、社会の変化の波を乗り越え成果を導く力を高めることを目指しています。

2020年度は、金融・IT・メーカー等5社から若手・中堅社員が集まり、2チームを編成して「NPO法人キープ・ママ・スマイリング」の課題解決に挑みました。1カ月半の期間、4回の集合プログラムと任意のチーム活動で、団体が抱える「寄付会員などの新規獲得、及び人員不足を補う事業体制の強化」の課題に対し、「学生インターン導入のための運用設計書と大学へのアタックリストの提供」「認知拡大に向けた仕組みづくり」などを提案。NPOの代表からは、「私たち団体が成長し、目指す社会を実現するために、現状を把握・分析したうえで提示された真の課題については頷くものばかりでした。また、その課題に対する提案も具体的で、成果物はそのまま私たちが活用できるレベルで感動しました」と感想を頂いています。

※プログラム概要図



※支援先の活動内容

キープ・ママ・スマイリング
Keep Moms Smiling!
代表 光原 ゆき さん



病児・発達に課題のある子どもを育てるママの悩みに寄り添い、一筋縄ではいかない子育てに取り組むママが笑顔でいられるよう、付き添い家族への食事面のサポートや、ピアサポートに取り組む他、全国の付き添い家庭の実態調査などの調査・提言などにも取り組んでいます。

研修プログラムの手応え

2020年度は、感染症予防の対応から初めて全てオンラインでの実施となりましたが、質の高い成果物を提供することができました。さらに所属企業、研修チームメンバーによる360度評価で自己と他者との間の認知ギャップなどから内省を深めました。行動・マインドなど内的変化を認識することで、本業におけるキャリア形成に活かせるポイントの言語化に役立てていただきました。

※参加者コメント（一部抜粋）

会社だとトップダウンが多いが、メンバーがフラットな関係性の中で、それぞれがリーダーシップを発揮しながら成果を出すことを求められた。リーダーシップとは？をたくさん考えた1カ月半だった。

最初はモチベーションが低かったと思います。団体の熱い想いに動かされ、メンバーのエネルギーが伝わってきて、気付いたら没頭していました。

オンラインだけでプロジェクトを進められるのが不安でしたが、チームメンバーのそれぞれが当事者意識を持ち、役割を考えることで、いい提案ができると身をもって体感できたことも社内ではできない経験でした。

※オンラインでの集合研修の様子



※最終日にオブザーブした人事担当者の感想

チームの様子を見ながら、普段はしない行動にチャレンジしていた。

社会課題を肌感覚で捉えてほしいと考えているので、送り出してよかったと思っています。

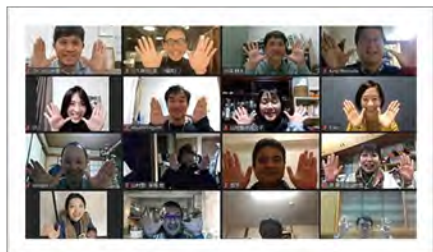
4 | 企業・行政とのパートナーシップ

協働
プロジェクト
140件

企業**24件**
行政**116件**

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員のみなさまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特性が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。



※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます

パナソニック株式会社

それぞれの参加動機が経営理念に立脚してひとつになり、課題を解決

パナソニック株式会社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、本年度のすべてのプロジェクトをオンラインで行いました。初の試みでしたが、距離の制約がなくなったおかげで、全国各地から参加しやすくなり、関東・関西・岡山・福岡等各地から、中長期プロジェクト4チームに計32名が参加しました。支援先も、オンラインでの活動が基本となったため、福岡県で棚田と山村の保全に取り組む団体をはじめ災害復興支援、就労支援、平和教育等に取り組む団体4団体に対し、新規会員開拓のための調査、団体の役割と連携の意義を伝える営業資料、ビジョンを共有するための事業計画、20年の活動が社会にもたらした影響を評価する取り組みなどを行いました。



SMBCグループ

ヒアリング・調査結果を基に、支援先団体の実際に則した、寄付業務に関するツールや提案書を納品

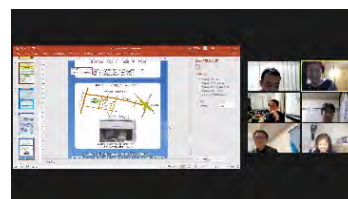
三井住友フィナンシャルグループ（SMBCグループ）は、三井住友銀行を含むSMBCグループ各社の従業員による横断型のプログラムを2014年度より展開しています。本年度は4社11名が参加し、難病児とその家族に首都圏への旅行支援を行う「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」と、江東区と芸術提携し区内学校等へのアウトリーチ事業も手掛ける「公益財団法人 東京シティ・バレエ団」を支援しました。業務の聞き取りを行い実際に則した「寄付業務効率化ツールの制作」、関連事業調査や関係者ヒアリング結果を基にした「寄付に関する施策と仕組みの提案」といった、支援先団体が寄付関連業務ですぐに活用できる成果物を納品しました。



日立グループ

参加しやすい短期間でのプロボノ支援により、本業を生かした社会課題解決を目指す

日立グループでは、本業を生かした社会課題の解決を目指し、その一環として、2016年度から短期間での「日立企業プロボノ」を実施しています。5年目となる2020年度は、初のオンラインでのプロボノプロジェクトの実施となりました。環境、地域福祉、終末期のケアをテーマに活動を行う3つの団体に対して、クラウドファンディング、団体紹介資料、事業評価の支援を行いました。慣れないオンラインでの進行の中、各チームが精力的に活動し、全ての支援先から「とてもよかった」と評価をされるだけでなく、参加者自身の満足度もこれまでで最も高いプロジェクトとなりました。



住友商事株式会社

100年先の社会を見据えて～プロボノで挑む教育課題の解決～

住友商事は、創立100周年を機に始動した社会貢献活動プログラム「100SEED」の一環で、2020年度より「教育支援プロボノ」を開始しました。グローバル共通テーマ「Quality Education」の下、教育課題に取り組むNPOの組織運営上の課題解決を支援。2020年度は、6団体に対し営業資料や事業計画の作成などを支援しました。「団体紹介資料が、行政からの業務委託につながった」など、早くも具体的な成果が出てきています。また、より多くの社員に社会課題に触れる機会を提供するため、3時間で完結する「オンラインスタディツアー」も2回開催。団体講演とプロボノ体験ワークを実施し、団体に対するアイデア提供と社員の学びの機会となりました。



パーソルホールディングス株式会社

社会課題解決を通してスキル・視座を高める「ミッション遂行型研修」

パーソルホールディングス株式会社では、さまざまな経験を通して自己認知を深め、自律的に成長することをテーマに、社会課題解決を行うNPO団体等と協業する「NPOプログラム」を実施しました。

グループ会社の垣根を超えた23名の社員が集まって4つのチームを組み、約3カ月のプロジェクトを通じて「はちどりプロジェクト」「森づくりフォーラム」「Plus Two」「ポリパンスマイル協会」の4団体を支援。各団体の抱える課題を解決する成果物の提案が終了した後、社会課題やチーム活動を振り返って参加者自身の内省を促すワークを実施しました。



SMBC日興証券株式会社

業務時間を活用しながら、社会課題解決に取り組むプログラム

SMBC日興証券では、2020年度より社員が業務時間の一部（上限20%、週7.5時間以内）を用いて社会課題解決に貢献できるプロボノ活動をスタートしました。本年度は、上期に「グラミン日本」「フェアスタートサポート」の2団体、下期に「エンドオブライフ・ケア協会」「ピアサポートF.A.cafe」に上期の2団体を加えた4団体の支援に取り組み、延べ60名の社員が参加しました。サービスグラントはこれらのプロジェクトにアドバイザーとして関わり、ミーティングへの同席や、進め方のアドバイスなど後方からの支援を行いました。



日本生命保険相互会社

次世代を育む活動をパートナーシップで一層加速させるために

日本生命保険相互会社は、「あらゆる人々が活躍できる社会の実現に向けた取り組み」として、生きづらさを抱える少女たちの支援を行う「一般社団法人若草プロジェクト」と包括協定を締結し、応援しています。

本年度は、団体の活動推進を後押しする観点から、日本生命の全国の従業員からプロボノメンバーを募集し、団体の業務運営上の課題整理・解決に向けた提案および業務運営効率化支援に取り組みました。



【2】行政との協働

東京都「東京ホームタウンプロジェクト」

<https://hometown.metro.tokyo.jp/>

地域の価値を再確認。活動を再び活性化するため、共に新たなチャレンジへ



事業開始から6年目となった「東京ホームタウンプロジェクト」では、コロナ禍となった4月末から5月頭に、過去プロボノ支援団体に向けて「活動状況・ニーズ調査アンケート」を実施しました。活動が「完全に停止した」47%「減少した」53%という結果と、ご回答いただいた様々な地域の現状を踏まえ、緊急的な支援プログラム等を実施。プロボノワーカーと共にオンラインのサポートなども行いながら、14の地域団体・NPO等とのプロボノプロジェクトに取り組みました。加えて、初の試みとなった「東京ホームタウン大学院」では、東京における新たな地域活動創出に向けた研究プログラム5件がその成果を生み出しました。

オンラインにて開催した年度総括イベント「東京ホームタウン大学2021」には延べ648名が参加。超高齢社会東京のこの一年での地域と人々の変化、そしてこれからの東京の地域の在り方について、ゲストと共に考え、提言していきました。



大阪府「大阪ええまちプロジェクト」

<https://eemachi.pref.osaka.lg.jp/>

プロボノによる支援が時流をとらえ、日本各地にも広がるオンライン活用の成果物

本年度で4年目となった大阪ええまちプロジェクトでは、コロナ禍による地域活動の影響を知るため、過去支援先団体を対象に調査を行いました。回答のあった6割以上の団体が新たな取り組みを検討していることが分かり、早急にオンラインでの団体同士の情報交換会（オンライン活用事例の紹介付）を開催。7月には事業継続に向けた課題整理ワークショップを開催し、プロボノチームが5団体を支援しました。

3～6カ月程度の中長期支援を受けた団体は12団体。プロボノチームとの協働で「Zoom利用手引書」「スマホ講座用テキスト」といった市民目線の成果物も生まれ、ウェブサイトで公開し、全国各地から344件のダウンロードがありました。

2日間に渡り延べ260名以上が参加した総括イベント「大交流会」はオンラインで開催。本年度のプロボノでの支援先を中心にYouTubeで活動紹介動画を放映し、課題と未来を共有し、これからの地域づくりについて考えました。



東京都「地域の課題解決プロボノプロジェクト」

コロナ禍で高まる町会・自治会のオンライン関連支援ニーズに応える取組を充実



東京都内の町会・自治会では役員の高齢化等が進んでいる中、コロナ禍という状況も加わり、本年度はオンラインツール活用へのニーズが高まっていました。本事業の取組の多くもオンラインで開催せざるを得ない状況下で、サービスグラントではまずZoom等の使い方を伝える「オンラインチャレンジ勉強会」を実施。その後に続くオンライン開催の「入門講座」（説明会）に、町会・自治会の高齢の方も広く参加いただけるよう、環境整備からスタートしました。

プロジェクト型支援を行う「個別支援」では、6つの町会・自治会をプロボノチームが支援。「オンラインイベント企画立案」など本年度ならではの支援実績も生まれました。また、集合型の講座への参加を通じて支援先の町会・自治会が主体的に成果物を作成し、プロボノワーカーが側面的な支援を行う「実践講座」では、計13団体がFacebookまたはホームページ作成にチャレンジ。オンラインでの情報発信の一步を踏み出しました。



横浜市「ヨコハマプロボノ(ハマボノ)」

<https://hamabono.city.yokohama.lg.jp/>

働き盛り世代からシニア世代までが参加し、プロボノの力で横浜型地域包括ケアシステムを活性化

全国に先駆けて地域包括ケアに取り組んできた横浜市には、身近な福祉・保健の拠点として地域ケアプラザが市内に約140あり、地域共生型の取り組みを推進しています。2019年度にスタートしたハマボノは、地域ケアプラザなどの協力も得ながら、地域包括ケアを推進するNPOや地域活動団体を支援しています。2020年度は、ハマボノ（3-4カ月のプロジェクト）、ママボノ（ママによるプロジェクト）に加え、ハマボノ1DAYチャレンジ（1カ月の事前準備と当日1日のプロジェクト）を実施、10プロジェクトに58名のプロボノワーカーが参加しました。



神戸市「神戸ソーシャルブリッジ」

「神戸をよりよい街に！」地域社会の課題解決をプロボノで支援

まちづくりに力を発揮する神戸市内のNPO・地域活動団体と、社会貢献活動を希望する人材をつなぎ、地域社会の課題解決に協働して取り組んできた「神戸ソーシャルブリッジ」。企業人だけでなく、行政職員、学生、シニア等多様な人材が参加するのが特徴です。3年目を迎えた2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら2カ月間のプロジェクトを実施し、14団体53名が参加しました。年度を総括して行ったオンラインイベントには、神戸市の関係人口やプロボノに興味を持った一般の方118名が参加しました。



青森県「青森プロボノチャレンジ」

県民と地域、青森と首都圏の新しいつながりをつくる、2カ月間のプロボノチャレンジ

青森県では、県民の誰もが地域で育ち、地域を助け、地域で安心して暮らしていくことができる「青森県型地域共生社会」に向けて、NPO・地縁組織・企業などの多様な主体の連携・協働を進めています。

本年度は、24名のプロボノワーカーが、青森市・黒石市を活動エリアとする4団体の活動ステップアップを支援しました。プロボノワーカーのうち4名は「ふるさとプロボノ」ワーカーとして首都圏から参加し、県民ワーカーとの混成チームでプロボノチャレンジを実施しました。



千葉県松戸市「プロボノMATSUDO2020」

「GRANT」活用2年目。コロナ禍でオンライン中心にプロジェクトを進行

松戸市では、前年から、オンライン上で地域団体とプロボノワーカーとをマッチングする「GRANT」を活用し、プロボノによる支援を行っています。コロナ禍で活動を停止する団体も多くあったなかでしたが、「プロジェクト型」として2団体3件、「講師募集型」として3団体7件の支援を届けることができました。

Zoomなどを使って非対面で進めたプロジェクトが大半となったほか、高齢者がコロナ禍でもLINEを使ってコミュニケーションできるような講習会を3回シリーズで実施するなど、例年とは違ったプロボノ活動となりました。



鳥取県「とりボノ」

県内団体の課題解決を通じて、都市のプロボノワーカーが鳥取県の関係人口へ

鳥取市・米子市・倉吉市の3団体に対して、首都圏などの都市部から12名、県内から9名、計21名がプロボノプロジェクトに参加しました。

都市部からの参加者は、新型コロナウイルス感染防止対策を行っての現地滞在も活用しながら、県内メンバーや地域の人たちと交流を深めるとともに、地域課題の解決に取り組む団体を支援することで、地域と強く関わっていききました。

プロジェクト完了後は、地域団体とプロボノワーカー合同で「ふりかえり会」を実施することで、関係性をより一層深めました。



東京都障害者スポーツ協会「障害者スポーツ団体体制強化支援事業」

プロボノ支援を通じて、東京都域を統括する障害者スポーツ団体の組織基盤の強化を図る

東京都内域を統括する障害者スポーツ競技団体に対し、団体の組織基盤強化につながるプロボノプロジェクトを実施しました。本年度は東京都知的障がい者サッカー連盟と東京都知的障害者卓球部会に対して、業務フロー設計の支援を行いました。両プロジェクトとも、担当者が一人で行ってきた業務を見える化し、改善した上で業務手順書としてまとめました。また、オンラインでのファイル管理や申込管理についての提案なども行い、効率化と情報共有ができるように環境を整えました。

支援先からは「この仕組みで非常にスムーズな運営ができ、引継ぎも容易になる」と感想を頂きました。



【3】補助金事業・その他

ふるさとプロボノ in 農山漁村

<https://furusato-probono.jp/>



「心のどこかが、移住する。」ゆるやかで温かいつながりを、日本中に。

2020年度は、農林水産省「令和2年度 農山漁村振興交付金（地域活性化対策（人材発掘事業）」）の採択を受けた交付金事業として、全国19地域15団体とプロボノワーカー94名と共に「ふるさとプロボノ in 農山漁村」を実施しました。

農山漁村への就業や移住・定住のきっかけづくりを目的として、農林水産業の「しごと体験」を通じた地域理解と、地域コミュニティの課題解決に挑戦する「プロボノ体験」とを組み合わせたプログラム。

参加したプロボノワーカーへのアンケートでは、「農家・林家・漁師として働くことに関心が高まった」人が69%、「将来的に、農山漁村に移住・定住することに関心が高まった」人が89%、「プロボノなどで農林水産業の支援や振興に関わることに関心が高まった」人が98%と、都市と地域の新しい関係づくりのきっかけを生み出すことへの成果が明らかになりました。



さらに、プロボノワーカーの中には、プロジェクト完了後も自発的に地域・団体との関係や支援を継続している人や、農林水産業に関するイベントへ参加する人、農業へ足を踏み入れるなど行動に起こす人も現れ、本事業が農山漁村を知るきっかけだけでなく、就業や移住・定住などへの興味関心を高めるきっかけとして長期的な成果をあげることも見えてきています。



5 | 新しいスタイルの社会参加を加速する

サービスグラントでは、プロボノによる支援の成果をさらに拡大するため、細やかなニーズにスピーディーに対応できるプロジェクト手法の開発にも取り組んでいます。なかでも、「NPO・地域団体などの負担を最小化したボランティアのマッチングとマネジメントのプラットフォーム」を特徴とする「GRANT」は、着実に実績をのばしています。その要は、コーディネーターとの協働。ここでは、その取り組みをご紹介します。

累計マッチング数

27プロジェクト

GRANT（グラント）

<https://grant.community/>

「GRANT」の本格的な運営開始がスタート。参加登録者は300名を超え、マッチング実績も着実に伸びてきました。2020年度には、27件のプロジェクトが完了。マーケティングやICT活用、広報、翻訳…と求める経験・スキルの分野もさまざまなプロジェクトが成立しています。人的・資金的リソースの限られたNPO・地域団体などの非営利組織が安心して使うことができるよう、引き続き機能充実に向けて開発を進めています。

「GRANT」の特徴

- ① 期間とゴールを明確にした「プロジェクト型支援」
- ② 支援期間中の「目標・スケジュール」を支援者自ら提案
- ③ マッチングまでの流れをサポートする数々の「テンプレート」
- ④ プロジェクトの進行状況をフォローする「リマインド」機能
- ⑤ お互いへの感謝を表現する「アセスメント」



多様な主体の新たなつながりを生み出し 非営利組織の担い手を広げるために

各地域の中間支援組織などが、さまざまな社会資源をつなぎ合わせ、注力している地域やテーマの活動団体の課題解決を進める「コーディネーター」としてGRANTを活用しています。現在、サービスグラントを含む10のコーディネーターが活動を開始。今後も積極的な活用を呼び掛けていく予定です。



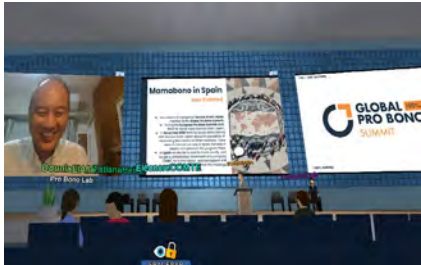
6 | 国際的ネットワークとの連携

グローバルプロボノサミットに登壇

10月13日～15日の3日間、世界各国でプロボノを推進する団体や企業、専門家やボランティアたちが一堂に会す「GLOBAL PRO BONO SUMMIT」が開催されました。パリで開催予定でしたが、コロナの影響により完全オンライン開催に変更。しかしながら、バーチャル会場を使用した趣向を凝らしたイベントとなりました。当日は、サービスグラントが世界で初めて行った「ママボノ」について、スペインで実施している団体と代表嵯峨がトークセッションを行いました。

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバルキャンペーンです。2020年は10月25日～31日に実施され、サービスグラントのプロボノ参加者も英語でプロジェクトについてツイートするなど、キャンペーンを盛り上げました。



7 | メディア掲載・講演実績

メディア掲載一覧

新聞

- ◆2020年7月3日 読売新聞
- ◆2020年9月16日 東奥日報
- ◆2020年10月9日 日本経済新聞(夕刊)
- ◆2020年10月21日 房日新聞
- ◆2021年1月12日 朝日新聞
- ◆2021年2月20日 須坂新聞
- ◆2021年2月24日 房日新聞
- ◆2021年3月18日 日本経済新聞

雑誌・専門誌

- ◆2020年春 100万人のふるさと（ふるさと回帰支援センター）
- ◆2020年5月号 さあ、言おう（さわやか福祉財団）
- ◆2020年夏号 PRESIDENT WOMAN（プレジデント社）
- ◆2021年3月 情報労連リポート

テレビ

- ◆2020年11月6日 NHK Eテレ

地域情報誌

- ◆2020年12月 ずっと、都島（大阪市都島区）

ウェブ

- ◆2020年10月9日 日本経済新聞
- ◆2020年10月21日 房日新聞
- ◆2020年10月29日 PRESIDENT WOMAN Online
- ◆2020年12月17日 タウンニュース(横浜市中区・西区版)
- ◆2021年1月10日 朝日新聞デジタル
- ◆2021年2月23日 房日新聞
- ◆2021年3月15日 情報労連リポート

講演実績

- ◆2020年5月2日 法政大学大学院
- ◆2020年5月18日 大阪大学
- ◆2020年7月27日 NEC×川崎プロボノ部
- ◆2020年9月5日 静岡県函南町
- ◆2020年10月1日 公益財団法人海外日系人協会
- ◆2020年10月11日 三鷹市市民協働センター
- ◆2020年10月21日 千葉県千葉市
- ◆2020年11月13日 新宿NPO協働推進センター
- ◆2020年12月2日 三井住友信託銀行
- ◆2020年12月10日 マルイグループ Ridilover
- ◆2020年12月11日 武蔵野社協
- ◆2020年12月12日 わかやまNPOセンター
- ◆2020年12月17日 地域福祉活動推進協議会
- ◆2021年1月16日 足立区NPO活動支援センター
- ◆2021年2月20日 日経SDGsセミナー
- ◆2021年2月24日 姫路市
- ◆2021年3月7日 八王子市
- ◆2021年3月20日 SRネット茨城
- ◆2021年3月24日 J-CEF日本シティズンシップ教育フォーラム
- ◆2021年3月24日 渋谷区

▼日本経済新聞 2020年10月9日 在宅ボランティア活躍 自分のスキル生かす「プロボノ」



▼読売新聞2020年7月3日 コロナ後の暮らし 在宅勤務急増 ボランティアや副業などに関心



▼房日新聞 2020年10月21日 ふるさとプロボノ 農業研修事業化に企業人連携



8 | 会計報告

サービスグラントの会計年度は9月末が決算期です。
2019年度(2019年10月1日～2020年9月30日)の活動計算書は以下の通りです。

科目		金額	小計・合計
【A】 経常収益			
1 受取会費			92,000
正会員受取会費	92,000		
2 受取寄附金			620,104
受取寄附金	620,104		
3 受取助成金等			600,000
受取助成金	600,000		
4 事業収益			145,354,622
サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	724,370		
企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの運営事業	143,398,212		
プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	1,232,040		
5 その他収益			347
受取利息	347		
経常収益計			146,667,073
【B】 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			65,761,496
給料手当	57,256,473		
法定福利費	8,505,023		
(2) その他経費			47,996,493
外注費	30,014,177		
会議費	3,635,634		
交際費	59,515		
旅費交通費	3,927,148		
通信運搬費	996,641		
消耗品費	694,206		
新聞図書費	23,044		
印刷製本費	1,348,298		
租税公課	37,250		
支払手数料	644,421		
研修費	4,960		
水道光熱費	133,087		
地代家賃	3,967,792		
保険料	47,780		
賃借料	127,534		
広告宣伝費	1,595		
修繕費	1,084,934		
雑費	27,557		
減価償却費	1,105,076		
貸倒引当金繰入額	115,844		
事業費計			113,757,989
2 管理費			
(1) 人件費			7,625,604
給料手当	6,763,604		
法定福利費	862,000		
(2) その他経費			18,475,884
外注費	94,966		
福利厚生費	121,686		
会議費	114,349		
交際費	8,000		
旅費交通費	691,005		
通信運搬費	727,325		
消耗品費	568,519		
新聞図書費	9,438		
水道光熱費	307,067		
印刷製本費	58,962		
諸会費	53,000		
支払手数料	1,505,832		
研修費	123,500		
地代家賃	4,686,900		
賃借料	304,560		
保険料	6,289		
租税公課	6,726,928		
雑費	7,400		
支払報酬料	1,482,025		
減価償却費	878,133		
管理費計			26,101,488
経常費用計			139,859,477
当期経常増減額 【A】 - 【B】 . . . ①			6,807,596
経常外収益計			0
経常外費用計			0
当期経常外増減額 【C】 - 【D】 . . . ②			0
税引前当期正味財産増減額 ①+② . . . ③			6,807,596
法人税、住民税及び事業税 . . . ④			879,400
前期繰越正味財産額 . . . ⑤			28,301,047
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤			34,229,243

本年度プロジェクト実施団体

【東京事務局】

青森県・岩手県・福島県・群馬県・東京都・千葉県・神奈川県・長野県・石川県・富山県・福井県・鳥取県・島根県

- NPO法人I am OKの会
- NPO法人ICT救助隊
- 青井第一自治会
- あおもり子ども劇場
- 浅川リバーハウス
- NPO法人熱海キコリーズ
- 公益社団法人ア・ドリーム・ア・デイ IN TOKYO
- NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
- 一般社団法人アルパ・エデュ
- NPO法人いこいの家夢みん
- NPO法人いすみライフスタイル研究所
- 一般社団法人WIT
- うきわネットワーク
- うみのアパルトマルシェ実行委員会
- 梅丘1丁目町会
- NPO法人笑顔
- 江戸小笑い広げ鯛
- 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会
- NPO法人エンリッチ
- おあしす西国立
- 青梅市大門第二自治会
- おでかけ3実行委員会
- 神楽坂六丁目町会
- 勝山市観光まちづくり株式会社
- NPO法人河北潟湖沼研究所
- キープ・ママ・スマイリング
- 北新宿三丁目町会
- 輝楽理庵
- クラブ123荻窪
- グリーンコートレジデンス自治会
- 認定NPO法人国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター
- NPO法人こだまの集い
- 駒形町会
- コミュニサーあおもり
- NPO法人コミュニティネットSSC大泉
- 桜上水四丁目町会
- NPO法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人
- 芝浦アイランド自治会
- しばさき彩ステーション
- 志茂四丁目町会
- NPO法人GEWEL
- 認定NPO法人JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）
- シリア支援団体 Piece of Syria
- 信州高山村観光協会
- NPO法人Small Step
- NPO法人せや
- NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）
- 祖師谷第5自治会
- NPO法人ターサ・エデュケーション
- 「体罰等によらない子育ての推進に関する検討会」委員 高祖常子さん
- 滝山住宅ふれあいの会
- 株式会社W.L.D.
- NPO法人WRO Japan
- 玉川学園地区社会福祉協議会
- チーム紬〜つむぎ〜
- チッチェノ・チッタ運営委員会
- 中央福祉の会（中央地域福祉活動推進協議会）
- 認定NPO法人東京コミュニティスクール
- 公益財団法人東京シティ・バレエ団
- 東京都知的障害者卓球部会
- 東京都知的障がい者サッカー連盟
- 鳥取ふるさとUI（友愛）会
- 中十条三丁目町会
- 中野えびす丸
- なかの生涯学習サポーターの会
- 一般社団法人なだて
- NPO法人日本コンチネンズ協会
- 一般社団法人日本伝統文化協会
- 一般社団法人日本UNEP協会
- ばあばの家 あさだ
- NPO法人NPO法人HUG for ALL
- 八王子市 高齢者福祉課
- NPO法人はちどりプロジェクト
- NPO法人ハナラボ
- 晴海テラス自治会
- NPO法人ピアサポートF.A.cafe
- NPO法人PAHの会
- 東金町中央自治会
- 東中野五丁目小滝町会
- Plus Two
- 認定NPO法人ブラチナ美容塾
- 認定NPO法人ブリッジフォースマイル
- ふれあいっこ三ツ沢
- NPO法人フェアスタートサポート
- 一般社団法人 ホツとカフェ小机
- 一般社団法人ポリパンスマイル協会
- 有限会社真砂
- 松ヶ丘自治会
- 港区 高齢者支援課/港区社会福祉協議会
- NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク
- 南新井自治会
- NPO法人南房総農産プロジェクト
- 見守り配食グループ わっか
- 武蔵村山少年少女合唱団
- NPO法人村おこしNPO法人ECOFF
- 元酒蔵の歴史的建造物群を保存・活用する会
- NPO法人森づくりフォーラム
- 株式会社やまとわ
- NPO法人ユースコミュニティ
- 四谷二丁目町会
- NPO法人米子ポート協会
- リトルファームHOMMOKUもくり運営委員会
- NPO法人ローカルデザインネットワーク
- NPO法人ワーカース・コレクティブちろりん村
- 若木会
- 若草プロジェクト
- 笑ってげんき会

【関西事務局】

大阪府・兵庫県・京都府・福岡県

- NPO法人 あっとオーティズム
- NPO法人インクルひろば
- NPO法人インターナショナル
- NPO法人FC岸和田
- 一般社団法人嚙下トレーニング協会
- おやじかふゑ トライ
- 介護予防サポーターの会「健やかスマイル」
- 架け箸
- きんきうえぶ
- きんじろう会すやま
- 神戸YWCA夜回り準備会(仮)
- こもれび相談室
- NPO法人里山倶楽部
- 認定NPO法人山村塾
- 自治会を支援する会・西須磨
- 「市民啓発・居場所づくり」ワーキンググループ
- 一般社団法人松南志塾
- 住まいみまもりたい
- ソシエ北大阪振興町会
- NPO法人そらしど
- 多世代交流ハッピーズ
- NPO法人棚田LOVER's
- チョイサボしのだ
- 認定NPO法人テラ・ルネッサンス
- 豊能町東ときわ台自治会
- 寝屋川あいの会
- NPO法人ねりん
- NPO法人はっぴい21福祉会
- ひというプロジェクト
- NPO法人ふぉーらいふ
- 吹田傾聴ほほえみ
- ボランティアネットコロ
- 認定NPO法人まなびと
- 御池台校区連合自治会 福祉委員会
- 美賀多台ふれあいのまちづくり協議会
- 友、友
- ゆるりん
- 善き隣人バンク
- よろず相談ネットワーク レインボー榎塚台
- NPO法人Oneself

【GRANT】

- NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
- 生きづらわーほりプロジェクト
- 一般社団法人 エープラス
- NPO法人 エンパワリング プレストキャンサー
- 河原塚ことぶき会
- 境南地域社協
- クロダマハウス
- 社会福祉法人 子どもの虐待防止センター
- NPO法人 児童虐待防止協会
- 一般社団法人 ドゥーラシップジャパン
- 公益財団法人 東京YWCA
- 常盤平はれの日サロン
- 社会福祉法人 日本国際社会事業団（ISSJ）
- NPO法人 日本セラブレイ協会
- ハーブガーデンからふみ出そう！
- 認定NPO法人 ブラチナ美容塾
- 一般社団法人 Marriage For All Japan -結婚の自由をすべての人に-
- NPO法人 宮ノマエストロ
- モモの木

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820

役員

理事

嵯峨 生馬（代表）
生駒 芳子
岡本 祥公子
川淵 恵理子
石原 英樹

監事

池山 允浩

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

新井 博子
河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
津田 詩織
宮坂 奈々
櫻尾 直美
北詰 佳子
柴岡 久美子
中川 寛允
中島 裕子
草野 杏子
上原 一紀
太田 侑里
菊池 斐
伊吾田 善行
大森 純子
栗原 彩乃
篠崎 敦司
谷口 有沙

細川 美津子
阿部 孝
小泉 英治朗
曾根 泰夫

関西事務局

槇野 吉晃
河井 靖子
角永 圭司郎
田中 綾香
堀 久仁子
永野 純一郎



賛助会員のご案内

本書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて自団体の財政基盤を確保しながら、プロボノのさらなる発展によって社会課題を解決するため、日々前進しています。そして、財政的な裏付けはなくとも、社会的インパクトの創出を第一義に、社会課題解決に寄与するNPOの支援のため、プロボノプロジェクトの立ち上げ・運営に今後も力を注ぎたいと考えています。なかでも、「GRANT」の開発運営、および、自主事業による長期プログラム（2020年度は73件のうち約30%にあたる43件が該当）の運営には、更に力を入れたいと考えています。

こうした、サービスグラントの自主事業を支える仕組みが賛助会員です。

サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO等のソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供し、よりよい社会を実現するため、ぜひみなさまの応援をお願いします。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。

お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者のみなさまが寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは以下URL、もしくはQRコードよりご覧ください。

<https://www.servicegrant.or.jp/about/supportingmember/>



企業協賛のご紹介

株式会社フューチャースピリッツ様より、フォーム作成ツール「フォームメーカー Business版」をご提供いただきました。お力添えをいただき、誠にありがとうございます。

